

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？

9月13日は、ロアルド・ダール、山田洋次の誕生日です。

閑話休題—痴漢に遭う!?

それはある日の地下鉄千代田線。それほど混んでいない電車に乗り込んだヨネやん。吊革を持って立った。吊革2つ空けた左に、若い女性が立っていた。

次の駅で近くのドアから数人が乗り込み、そのうちの1名（若くもない男）が、空いている吊革がたくさんあるのに、わざわざ大急ぎでやって来て、私と女性の間に入り込んだ。

「ははあ～ん、こいつ痴漢やな」。注意して横目で見ていると、挙動不審。きょろきょろして落ち着かず、動きがおかしい。どちらかと言うと寒い日にTシャツに半ズボンで、お肌剥き出し。おまけにわざわざTシャツの袖をめくりあげ始めた……。いよいよ行動に移すつもりやな。

ヨネやんはその場を離れてその男と若い女性の間に入り、「ちょっと危ないから移動した方がええよ」と声をかけた。女性は「ありがとうございます」と小声で言いながら、その場を離れた。

（ふん、ざまあみろ）と内心思っているヨネやんの顔をじっと凝視するその男。「アカン、逆恨みや。明らかにこの男の腕の方が太いなあ。しもたなあ。いつ来るかなあ」とおっかなびっくりで待っているのに、見ているだけで何もしない。

「変なヤツやなあ」と思っていたその時、電車ががたと揺れた。その瞬間、その男

は大きく揺れて、ヨネやんに体を預けてきた。「そこまでの揺れとちゃうやろ。こんな太い毛むくじらの足で案外足腰弱いんかな？」

しばらくすると、また電車が揺れる。男はヨネやんに体を預ける。今度は、揺れてもいないのに、剥き出しの二の腕をヨネやんの腕にくっつけてくる。「なに、これ?」。その内、毛むくじらの足までヨネやんに擦り擦りしてくる……。

「えっと…、つまりこれは??? 狙いは最初から僕やったん？」

予想外の事態に脳が働かないヨネやん。事態を把握しようと考えている間、その男は一層体を密着させて来る。

ようやく事態を悟ったヨネやんは、怒鳴りつける。「こら、ええ加減にしとけよ！ この痴漢野郎！ さっさと離れんかい！」

この体験があつてから、声を挙げられない若い女性の気持ちが、痛いほど理解できた。心の準備をしていない時、他の事に夢中になっている時等に、まさかの事態に遭遇すると、とっさに声なんて出るものではない。ましてや、危なそうな男を相手と対決するなんて…。

世の心無い大人が「どうして声を挙げないの？」と主張するが、「あなたは出来るの？ あなたの娘にも同じ事が言えるの？」と逆に聞きたい。

大人としてすべきことを考える今日この頃。

今日の歌：飯田蛇笏

おりとりて はらりとおもき すすきかな

*命の重さを問い直したい今日この頃です。